

第 16 回神戸市地域公共交通会議 議事要旨

日時：令和 7 年 12 月 23 日（火）14 時 30 分～16 時 00 分

場所：三宮国際ビル 2 階会議室

委員：出席者 13 名、欠席者 1 名

学識経験者 土井 勉、猪井 博登

市民代表 久保 三男

交通事業者 大野 宗誉、前田 啓介

各種団体 新屋敷 昭一、下谷 富雄、三宅 勝

関係行政機関 木原 健太、鎗水 正和、村上 正浩、前田 英輝、久保 真成

協議事項①：北区青葉台・柏尾台地域コミュニティ交通「さとやま」の本格運行の実施について

⇒協議が整った

【主な発言内容】

猪井：コアキタマチが協力しているということだが、この団体はどういう団体なのか。

市：コアキタマチは商業施設を取りまとめている団体。

猪井：交通空白の方策として共創が大事。貨客混載も含めて、こういった様々な団体との協力を継続していただければと思う。

土井：車両は 8 人が定員だが、児童用の朝便には平均 8 人乗車されている。場合によっては積み残しが発生しているのではないか。フォローはどのようにしているのか。また、帰りの便が設定されていないが、児童はどのように帰宅しているのか。

市：朝便は、元々山田小学校まで運行していた市バスが、令和 7 年 4 月から減便したことを発端としている。児童たちは小橋の停留所まで歩いて、そこからバスに乗るのだが、大体利用者が 30 人くらい。減便されたバスでも全員乗り切れるが、立って乗る子も多く、低学年だけでも座らせてあげられないかということで、地域や運行事業者との協議の結果、朝 1 便のみ「さとやま」を運行することとなった。「さとやま」は小橋を 8 時 3 分に出発するが、同じ時間に市バスも出発するため、「さとやま」に積み残しされても市バスに乗ることが出来る。

学校からの帰りの便についてだが、帰りの乗車は分散するので問題ないということで、市バスで下校してもらっている。

（以上）

協議事項②：神戸市地域公共交通会議 運賃協議会設置要綱の改定について
⇒協議が整った

【主な発言内容】

特になし

報告事項①：北区山の街で実施している無料送迎バスの実証実験の状況について

【主な発言内容】

木原：交通空白の解消のために様々な地域資源を活用しようということの一步。病院の厚意に感謝するばかりだ。タクシーにあまり大きな影響はないということではあるが、同じような取り組みを別の地域に新たに展開ということであれば、情報共有は必要。無料なので、将来的に公共交通に影響が出ないようにする必要はある。

「継続運行」というのは、今後ずっと継続という趣旨なのか。

市：市としては公共交通に影響が出ないよう、利用実態を含め都度状況を見ていくつもり。病院と地域で協議の上、続く限りで考えている。

木原：今回の取り組みは運送法上の枠外にはなるが、あくまで病院のご厚意で運行しているものなので、病院側が運行継続は難しいとなれば終了せざるを得ないことを地域の皆さんには理解いただく必要がある。

市：あまり乗客数が増えすぎてもとは思っているので、利用状況を確認しつつ適切に進めていきたい。

大野：事業の中身については把握しており、取り組みとしては結構と思うが、やはりタクシー事業者としては、ほぼ影響がないとはいえ、今までタクシーに乗っていたお客様がこの無料送迎バスを利用されているのではないかと思う。実証実験の行きつく先として、人数が多すぎてもダメ、少なすぎても意味がないとなると、今後実験にどんな結論を出していくのかわからない。事業者としては今後の状況を逐次教えてほしい。

市：運転手不足という課題解消のために、交通に不便なエリアで、送迎バスなどの地域資源を活用し混乗することで地域の足になりえる可能性を探るという目的の下、進めている事業である。人数が増えすぎても公共交通に影響が出るので、今後の利用状況は市もしっかり見ていきたい。

下谷：各バス停の乗降者数をだしてもらっているが、病院で降りる人は何人いるのか。実際に乗車されている方全員の利用状況が分かる統計でないと実態がつかめない。駅も含めて出してもらいたい。

市：今回の資料では病院利用者以外の、乗車証を利用した会員の利用状況についてのみお示ししたが、病院利用者のバス利用者数も把握しているので、お示しすることは出来る。ちなみに全体では、20人乗りのマイクロバスで、19人以下が90%以上を占めている。全く乗車されていない0人の時もあるれば、5人以下の時も多いような状況。

土井：本格運行を開始するのであれば、地域と病院で覚書を結ぶなど、何か文書で残しておいた方が安心ではないか。また、PRについてはどのようにやっているのか。PRは地元の方・病院と相談して、出来るだけピンポイントでやっていったらどうかと思う。また、同じような取り組みを別の地域で行った際に分かったことだが、行きはバスだが、帰りのタクシー利用が増えるということもある。バスのおかげで外出機会が増えたことで、今までタクシー利用されなかった人の分が増える、全体のパイが増えることもある。今後、外出機会の増減やタクシー利用回数等、何を調べるかはよく考えながら、効果検証してもらえたらと思う。

市：実証実験中にも市・地域・病院で覚書を結んでおり、改めて結ぶということで考えている。PRについては、これまで3回ほどまちづくり協議会の対象地域範囲内でニュースを撒いている。途中で対象地域を増やした際に、乗車証の即時発行会を開いたが、そこで会員が30人が100人に増えた。効果検証のためのアンケートについては、今後検討していければと考えている。

土井：ニュースに小山クリニックにもでてもらえれば、地域との協力関係もより結べるのではと思う。

(以上)

報告事項②：西区学園東町での地域コミュニティ交通「にじ色バス」の運行について

【主な発言内容】

木原：21条許可で試験運行をするということか。

市：一旦試験運行を経て、本格運行を行う前に地域公共交通会議で諮らせていただく。

土井：今回の報告では運行内容もまだ中途な感じではあるので、試験運行の内容が決まった段階で報告していただいた方がいいのでは。

市：試験運行の前にも何らかの形で報告させてもらうこととする。

木原：新事業者は貸切バス事業者ということで、乗合運行のノウハウがないはず。早発禁止などのルールや、乗客との金銭のやり取りなど不慣れな部分も多いはずなので、しっかりと引継ぎの期間を設けてほしいと思う。

土井：バスが途絶えてしまうと地域の方々もどうしようということになるので、続けていただけるのは有難い。今回利用が目標を満たせずダメになったとのことだが、ダメのあり方が大事。ダウンサイジング等、違う道を模索していき、地域の皆さんの移動を支

えるために新たなやり方を考えていくのがとても大事だ。目標を満たせなかった場合の対応について考えてほしい。

(以上)

その他

【主な発言内容】

猪井：神戸市の地域公共交通計画には、中長期でネットワーク形成を図っていくと書かれている。地域コミュニティ交通が18地域で展開しているということなので、地域の参画のされ方が違う中でも、少しずつ整理であったり、ネットワークを組んでいったり出来るのかなと思う。地域の方々の交通が今後も継続できるように、是非これまでの取り組みのレビューをして、今後の効率的なネットワーク形成のためにどうしていけばいいのか、考えていただければと思う。

土井：アンケート等を個別にするのも大事だが、いままでの取り組みの全体的な評価を行うことも必要だ。市バスや鉄道とどのように組み合わせていくのかも必要な視点となるため、今後検討して行ってほしい。

(以上)

北区青葉台・柏尾台地域コミュニティ交通「さとやま」運賃協議会 議事要旨

日 時：令和7年12月23日（火）16時00分～16時20分

場 所：三宮国際ビル2階 会議室

協議事項：さとやまの協議運賃について

委 員：出席者4名、欠席者0名

市民代表 久保 三男

交通事業者 大野 宗誉

関係行政機関 木原 健太、久保 真成

⇒協議が調った

【主な発言内容】

木原：回数券はなく都度払いか。

市：現時点ではそうだが、今後、発行する可能性はある。

木原：新たな割引の設定を今後される場合は届け出が必要。ポイントカードは継続か。

久保：コープと契約しているので、継続する。

木原：貨客混載の金額について、陸運局へ出す書類に書く必要はないが、価格は決めておいてほしい。「本家かまどや」のお弁当配送以外を引き受けることはあるか。

市：スペースが限られるので、難しい。

大野：事業者として貨物免許を取得している。コロナ期に食料品に限り運んでいいという特例措置があり、そのまま継続している。運送料は大きさというよりも一回当たりの金額が〇〇千円というように決まっている。

（以上）